



教誨あれこれ

全国教誨師連盟広報誌

第9号

令和5年12月発行

公益財団法人 全国教誨師連盟

東京都中野区新井3-37-2

教誨師(きょうかいし)は、
刑務所などに収容されている人との対話を続けています。

令和4年に近代宗教教誨150周年を迎えました。

水戸刑務所での教誨

私が所属する水戸刑務所は最初水戸少年刑務所として、平成20年に水戸刑務所と改称され現在に至ります。少年刑務所時は20歳より26歳までの収容者でした。現在は26歳以上の犯罪傾向の進んだ(B指標)受刑者を収容しています。

収容者年齢も高齢化し教誨師として戸惑いを感じた時もありました。水戸刑務所では個人教誨と集合教誨がおこなわれています。仏教系、神道系、キリスト教系の教誨師20名で活動をしています。

私は集合教誨を担当しています。新入時・釈放前教誨は一期一会で2度と顔を合わすことがありません。入所して間もない収容者そして釈放が間もなくの人たちに話をしています。いつも心がけていることは耳を如何に傾かせるかと云うことです。どんなに良い話でも相手が聞こうとしなければ何にもなりません。

禅宗ですので少しの間坐禅を通して「自分と向き合うこと」の大切さを知ってもらい反省を促しています。

この私の教誨が本当に収容者の心に僅かでも聞き入れら

れているのかと不安に思うことがあります。一度アンケートをお願いしたことがありました。それを見て聞き入れた者もいたことを知って安堵したことを思い出しました。

ある時の研修会(東京矯正管区教誨連盟主催)でお名前を忘れてしまったのですが「百人の教誨師がいれば百の教誨がある」とおっしゃられた方がいました。それを聞いて本当に心が救われた思いがしました。手探りの教誨が収容者の更生に役立ってくれることを願っています。

教誨師を拝命しておよそ30年の歳月が経過しようとしています。当に光陰矢の如し。収容者の更生の手助けが出来ればと思っています。

(水戸刑務所所属教誨師 園部 義光)



園部教誨師

教誨とは

刑務所や少年院などの施設に収容されている人と面接し、心の悩みに向き合い、心の安らぎと前向きな生き方を共に探ります。教誨は一对一で行う個人教誨と、一对多の集合教誨があります。

教誨では、各々の宗教を背景にしたお話をします。また、お盆、彼岸、クリスマス、大赦などの宗教行事を被収容者と共に行います。申し出があれば、供養や法事、ミサ、神事などを行うこともあります。

水戸刑務所の歴史

1871年(明治4年)	旧水戸藩の徒刑場を引き継ぐ。
1880年(明治13年)2月	「茨城県監獄本署」と称する。
1882年(明治15年)3月	茨城県監獄本署が全焼。水戸市北三の丸支署に併合する。
1882年(明治15年)4月	水戸市北三の丸支署を監獄本署と改称する。
1890年(明治23年)9月	「茨城監獄」と改称する。
1903年(明治36年)4月	「水戸監獄」と改称する。
1922年(大正11年)10月	「水戸刑務所」と改称する。
1945年(昭和20年)5月	現在地に移転する。
1946年(昭和21年)8月	「水戸少年刑務所」と改称する。
1985年(昭和60年)4月	全体改築工事着工
1988年(昭和63年)3月	改築工事竣工
2008年(平成20年)4月	収容区分変更に伴い「水戸刑務所」と改称する。 収容定員は564名

近代宗教教誨 150 周年記念・古文書発見

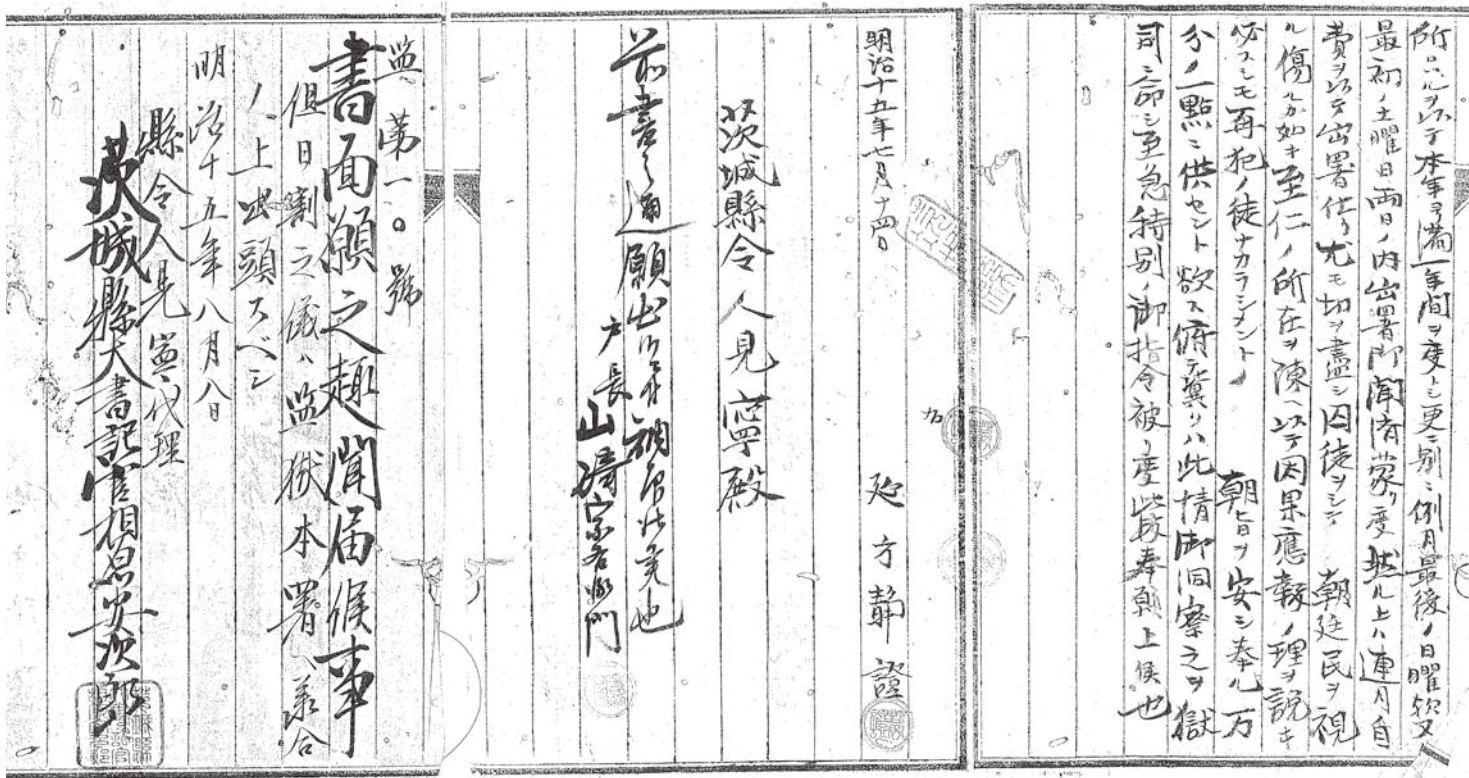


■教誨師の歴史

日本では平安時代から教誨は行われていました。明治政府は、国際社会に一刻も早く仲間入りする必要に迫られ、不平等条約改正と富国強兵のための法制度を整備し、その一環として、明治14年「監獄則」を公布し教誨師が誕生しました。

その10年前（明治5年）真宗大谷派の鵜飼敬潭師は政府の許可を取り付け、名古屋監獄（名古屋刑務所）において教誨活動を開始していましたので、近代宗教教誨の開始を明治5年としています。昭和憲法制定まで、教誨師は官吏（公務員）として活動していました。

■茨城県監獄署説教之儀願(写し)明治15年称念寺



■茨城県監獄署説教之儀願(書き起こし)

茨城県監獄署説教之儀願

鹿嶋郡鹿田村

真宗大谷派 稱念寺住職

延方静證

本県已に他県に魁け昨明治八年一月以来例月一回監獄署内に説教の途を開き神官僧侶交々（こもごも）出署屢（しばしば）教諭すと雖も未だ囚徒中著しき悔悟を顕せし者あるを聞かず。然りと雖も 其の 功なきと言 いべ からざる 歟（か）。本年更に亦后向例月日曜毎に説教の儀を神道各宗御達し相成り候に就いては出署の教職一層教諭の一点に力を尽くすに於いては 孰（たれ）か 不足を立つる 者有るべからず矣。得共愚僧夙（つと）に 欲する所あるを以て本年より満一年間を度とし更に別に例月最後の日曜歟又最初の土曜日両日の内出署御聞済 蒙り 度然る上は連月自費を以て出署仕り尤も切を尽くし囚徒をして朝廷民を視る 傷るが如き至仁の所在るを陳べ以て因果応報の理を説き必ずしも再犯の徒なからしめんと。朝旨を安し奉る万分の一点に供せんと欲す。 俯して冀（こいねがわ）くばこの情御洞察之を獄司に命じ至急特別の御指令被り度此の段奉願上候也

明治十五年七月十四日

延方静證

茨城県令 人見寧殿



■称念寺略縁起

1261年（弘長元年）10月、鹿島神宮神官であった為尊が性信房を師として仏門に入り称念と称して寺基を潮来に定め創立。1460年（寛正元年）笠間穴戸唯信寺内に移り以来無住の寺となる。1846年（弘化3年）越中在家出身の秀明が称念寺をもらい受け北陸移民の寺として現在地に移転再興する。

■延方静證 略年表

西暦	和暦	年齢	事項
1853	嘉永6		長男として誕生(9/)
1870	明治3	17	得度(10/14)
1875	明治8	22	教導職に任命(8/25)
1880	明治13	27	宗祖600回忌法要と寺基移転奉告法要を兼修(二昼夜)
1881	明治14	28	第2代住職就任(5/26)
1882	明治15	29	茨城県監獄署での説教を願い出る(7/14)
1883	明治16	30	茨城県監獄本署より教誨活動に対し謝状と賞金5円(11/)
1884	明治17	31	初代住職秀明寂(9/17) 常陸國布教掛(9/27) 茨城県より教誨活動に対し謝状と賞金5円(12/28)
1885	明治18	32	茨城県監獄本署より謝状と賞金7円(12/28)
1902	明治35	49	暴風雨被害により本堂・庫裡全壊*1
1906	明治39	53	二男静志16歳で寂(4/28)
1907	明治40	54	父の出身地、越中大福寺参拝(3/15～4/26)*2
1908	明治41	55	中風を患い半身麻痺となる(3/1)*3 病床の長男隆暉と今生の別れをなす(4/1) 隆暉31歳で寂(4/10) 孫量海(4歳)に遺言を残す(7/2)*4 寂(7/25)「忠心院釋静證」

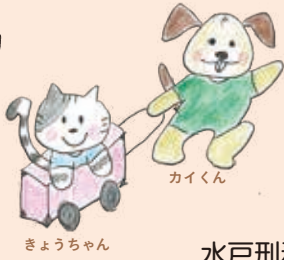
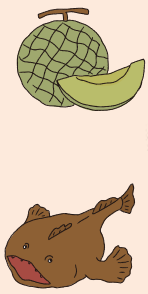
- *1 『暴風雨被害記録』を記す。東日本各地を襲った暴風雨は特に茨城県の被害が大きく、筑波山では風速72m/sを観測。全壊2万戸(県内住戸数の1割以上)、死者は117人を数えた。
- *2 東京・富山大福寺・城端・直江津・高田・善光寺・横川・結城・真岡・益子・穴戸・帰寺
- *3 『中風病に罹りたる略記』を記す。「(略)先立たる静志や隆暉等に面会を期せん事を決し只弥陀本願の由を信し一日一夜を明し念仏三昧に入りて往生極楽の素懐を遂げん事を欲する」
- *4 『(略)父病人の身体に依り父の面を見たととき父隆暉実子量海の頭を撫で曰く量海これよき僧侶となれよと三言あり。量海は父の顔を見て微笑して去る。吁今生親子の永別の深言なり(略)』

■真宗大谷派 称念寺第2代住職 延方静證師について

延方静證師は、明治8年教導職(きょうどうしょく)に任命された。教導職は無給の官吏(公務員)で国民教育の一端を担うことが期待されていた。明治5年、教導職の鶴飼啓潭、箕輪対岳が教誨を開始し、後に続く教誨師も生まれていたが、明治14年「監獄則」が制定され法令に基づく教誨を行うことができるようになった。そこで、明治15年、師は月に2回自費で監獄を訪れ、囚人に対する教育を行い、因果応報について理解させ再犯を防ぎたいとし、茨城県令(県知事)に願い出て教誨を許可された。

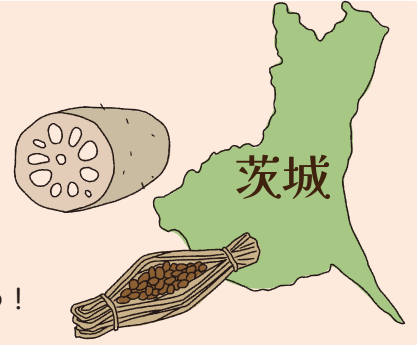
師の性格や当時の状況を、残されていた日記や家計簿から推測した。バイタリティのある人で、暴風雨の被害や息子の死去などの苦難があっても、お寺(茨城県銚田市)から当時の水戸監獄までの約40キロを馬で往復したり、水戸市内に説教場(分院)を作り、水戸監獄での説教時間を長く取ろうとしていたことなど、教誨に対する並々ならぬ情熱を感じることができた。社会の中で宗教家として生きることとして当たり前なことと師は思っていたようである。当時も教誨師はボランティアであったが、家計簿には茨城県から感謝状と賞金5円を頂いたとあったので調べてみたところ、明治30年頃の1円は現在の3、800円相当であるので、約2万円程度の重みがあったようだ。

師の称念寺を訪ね、教誨師の思いや境遇は今も昔も変わらないことを確認するとともに、昔の教誨師の熱い情熱を感じることができた。



茨城県

いばらぎ？ いばらき？



水戸刑務所は茨城県にあります。茨城をもっと知ろう！

カ イ：きょうちゃん。茨城県の読み方はどっちが本当でしょうか

きょう：どっちだろう。茨城の人は「いばらぎ」と言っていたと思うけど。

カ イ：正解は「いばらき」県なんだ。一説によると茨城の方言で語尾が「ぎ」と聞こえてしまうから、他県の人たちが「いばらぎ」と言ったことから混乱が始まったとも言われているんだ。茨城は、日本全国魅力度ランキングで最下位だったりするんだけど、本当はすごい県なんだ。

きょう：どんなことがすごいの。新幹線が通っているけど駅がない県とか、なんか残念な情報しか聞いたことがないけど。

カ イ：色々な農産物の生産が日本一なんだ。今回訪問した称念寺の周辺はメロン栽培が盛んなんだ。茨城のクリは甘くて美味しいという評判だよ。ピーマン・チンゲン菜・小松菜・日本なし・鶏卵なんかもそうなんだ。ビールの生産量も日本一なんだよ。

きょう：茨城県は食の王国なんだね。そうだな納豆は？

カ イ：もちろん日本一だよ。茨城は食の王国だけではないんだ。1960年代から筑波研究学園都市として開発が進み、現在は日本の頭脳が集まる日本国内最大の学術都市となっているんだ。筑波宇宙センターやつくば国際会議場、また、原子力開発の研究施設がある東海村なんかもあるよ。

きょう：茨城ってすごいね。

カ イ：風光明媚な観光地もたくさんあるんだけど、最近「魅力上等 いばらぎ」というポスターを駅や電車の中で見かけるんだ。ナメ猫時代のリーゼント頭の高校生が筑波山や大洗海岸の大洗磯前神社をバックに写っているんだ。インパクトはあるけど・・・

きょう：ポスターはインパクトが大事。カイくんの評価は別として、インパクトがあるならいいんじゃないの。

カ イ：そうだね。とにかく茨城はいいところだから、きょうちゃんも一度は行ってみてね。

きょう：はい！！

メロンの生産量
1位 茨城県
2位 熊本県
3位 北海道

美味しい メロンランキング
1位 茨城県
2位 熊本県
3位 北海道

栗の収穫量 (21年産)
1位 茨城県
2位 熊本県
3位 愛媛県

れんこんの生産量
1位 茨城県
2位 徳島県
3位 佐賀県



ピーマンの生産量
1位 茨城県
2位 宮崎県
3位 高知県

チンゲン菜生産量
1位 茨城県
2位 静岡県
3位 奈良県

小松菜の生産量
1位 茨城県
2位 埼玉県
3位 福岡県



全国教誨師連盟は皆さまからのご寄付により運営されております

犯罪者や非行少年等の改善と更生のために活動している教誨師にご理解とご支援をお願いします。

寄附金受付口座（郵便振替）00130-4-46544

公益財団法人 全国教誨師連盟 TEL03(3389)7411

公益財団法人矯正協会の事業

沿革

矯正協会の歴史は、明治以来の矯正の歩みと重なっていることが多く、当協会の前身である「大日本監獄協会」が発足したのは明治21年です。それから、130有余年にわたり、一貫して我が国の矯正を支える活動を行ってまいりました。

この時代、我が国の大きな課題の一つは、司法制度・監獄制度の改良であり、この活動を民間サイドから強力に支援する目的で大日本監獄協会が創立されました。

現在、月刊誌として発刊している「刑政」の前身である、大日本監獄協会雑誌創刊号が、明治21年5月に発刊

されています。

監獄法が公布された明治42年に「監獄官練習所」の運営を開始しています。現在の矯正研修所に当たるもので、昭和22年に至るまでの約40年間、国に代わり、刑務官の養成訓練に当たりました。

組織の名称も、大日本監獄協会、監獄協会、刑務協会、矯正協会と変遷していきます。

昭和58年には「刑務作業協力事業部」が設置され、平成25年に財団法人から公益財団法人へ移行し現在に至っています。



第19回刑務官練習所終業式(昭和3年)



矯正図書館：特色ある資料



刑政誌：現在の刑政と明治21年創刊号

事業の目的

矯正協会は、「矯正に関する学術の発展と普及啓発」、「矯正行政の運営への協力」の公益的活動を行うことに

よって、「犯罪及び非行の防止」に寄与することを目的にしています。

事業の主な内容

○矯正図書館

犯罪・非行の防止など刑事政策に関する我が国で唯一の専門図書館で、当協会の草創期から今日まで収集・蓄積された国内外の矯正文献等を一般公開しています。

○出版

矯正活動を紹介するための各種図書や矯正職員が使用する教科書や実務参考書等の出版を行っています。

○研究活動

矯正施設の運営や再犯防止を目指す被収容者処遇の効果的実施に資するために、矯正処遇・矯正教育・鑑別をはじめとする矯正の諸活動に関する科学的調査や研究を行い、その成果を紀要『矯正研究』にまとめ発刊しています。

○矯正活動に対する支援

「被収容者に対する支援」、「矯正施設に対する支援」及び「矯正職員に対する支援」の3つの支援を行っています。

ます。主なものとして、運動会、協議会等の被収容者関連行事の支援や被収容者居室用カレンダーの提供、矯正事業に功績のあった矯正職員に対する祝詞や記念品等の贈呈、矯正施設の落成式、慰霊祭、記念誌の制作及び矯正職員の心身の鍛錬に向けた武道奨励の支援を行っています。また、創刊から130有余年の歴史を有する月刊誌「刑政」を発行(毎月約2万4千部)し、矯正協会会員はもとより、関係機関、大学等のほか、矯正施設所在の地方自治体にも矯正広報用に多数配布しています。



出版物の一例



2023被収容者居室用カレンダー

○刑務作業への原材料の提供

刑務所で実施されている刑務作業は、受刑者の労働生産性、立地条件等の制約もあり、全ての受刑者が行う作業を確保することが困難な状況にあります。そこで、刑務作業協力事業部が、作業に必要な原材料を提供し、その不足分の作業を補うことによって、国の刑務作業を支援しています。

○関係団体への助成

犯罪被害者支援団体や、矯正活動を直接・間接に支援する団体に対し助成を行っています。矯正活動を支援する団体としては、被収容者に対する面接指導や宗教教誨を行うことを目的とする法人や、矯正活動に関する調査研究の実施を目的とする学会などがあります。

○会員福祉事業

会員福祉事業は、公益目的事業ではありませんが、当協会では、会員の福祉に資するための各種事業を、明治

の時代から長年にわたり行っています。

主なものとして、永年勤続者表彰と記念品の贈呈のほか、入会や結婚の祝意の伝達及び記念品の贈呈に加え、毎年、会員に会員手帳の贈呈等も行っています。



会員福祉事業

トピックス

矯正協会未来フォーラム

明治25年「大日本監獄協会」において開催されて以来の刑事政策に関する情報提供・意見交換会として、国の内外の、刑事政策やその隣接分野の学識経験者、実務家等による講演を、令和5年度から矯正協会未来フォーラムと改称して年に数回開催しています。

また、講演場面を収録・加工した映像を動画配信サイト(YouTube等)に公開し、矯正行政を中心とした刑事政策等について広く情報発信するよう努めています。

紀要「矯正研究」第6号

令和5年(2023年)は、少年院が創設されてから100年の節目の年となります。多摩少年院と浪速少年院が日本で初めて設立されたのが、大正12年(1923年)のことでした。そこで、矯正研究室では、少年院の歴史について様々な切り口から調査研究を進めました。その成果を取りまとめ、紀要『矯正研究』第6号を少年院創設100年特集号として刊行しました。また、同紀要の付録として、昭和59年に当協会から発刊され、研究者や専門家の間で評価の高い(現在絶版の)『少年矯正の近代的展開』の全内容を、矯正協会ホームページ(<https://www.kyousei-k.gr.jp/>)を通じて閲覧することができるようになっています。

ところで、その調査研究の過程で、多摩少年院教誨師の伊佐榮豊先生、元教誨師で高尾山薬王院御貫首の佐藤秀仁先生にインタビューをお願いし、高尾山と同少年院とのつながりの歴史に関し、大変興味深いお話をうかがいました。両先生からおうかがいしたお話も、『矯正研究』第6号に登場しています。

少年院の歴史を辿り、矯正施設と地域社会の連携を考える上で、格好の書籍ですので、皆様是非ご購入ください(税込1,650円+送料)。

メールアドレス kenkyu@kyousei-kyoukai.jp
電話番号03-3319-0650 (矯正研究室直通)

紀要『矯正研究』のバックナンバー(第1号～第5号)のご購読も随時受け付けています。



紀要「矯正研究」

矯正技法講習会

矯正技法講習会は認知行動療法について、例年、3コースを実施しています。講師はこの分野では大変著名な伊藤絵美先生にお願いしています。

令和5年度からは、新たに、動機づけ面接ワークショップ初級及び中級の2コースに加え、箱庭療法研修会を開催しています。開催の時期・応募方法等につきましては、当協会ホームページでその都度情報発信しています。

おかげさまで40年

< 刑務作業製品 今と昔 >

昭和58年、矯正協会に刑務作業協力事業部が誕生し、今年40周年を迎えました。行財政改革により刑務作業に必要な原材料予算40億円が削減されたため、国からの補助金20億円を年に2回転させて、刑務作業に必要な原材料費について、製品を販売、その経費を賄うとのことからスタートしました。

昭和から平成に掛けては、大型の家具が丈夫で質がいいということで、人気商品の時代もありました。今は、マンションが多くなり大型家具が売れなくなり、刑務所作業製品のトップは、横須賀刑務支所製品の石鹼「ブルースティック」、横浜刑務所製品の乾麺、特に今年発売の「横浜刑務所で作ったパスタ」が大好評です。

令和5年7月、ヤフーのトップに上がった「ブルースティック」の記事のおかげで、1日で1500件の購入がありました。それをきっかけに、新聞、雑誌、テレビ、YouTube等々、刑務所作業製品を取り上げていただき、現在も品薄状態が続いております。

実は、刑務所作業製品は、各地の伝統工芸品の継承に一役を担っております。

「堺手織綴通（大阪刑）」、「堆朱・乾漆（新潟刑）」、「津軽塗（青森刑）」、「佐賀錦（麓刑）」、「備前焼（岡山刑）」などなど、是非一度お手に取っていただき完成度の高さをご覧くださいと思います。

また、メモ帳、便箋・封筒、ノート、陶器、BBQコンロ、紳士靴、バッグ、ジーンズなど品物を上げ始めたばかりの頃の種類の製造しております。

是非、自家用、プレゼント用、お土産などにお使いいただくと嬉しいです。

刑務所作業製品は、インターネット販売も行っていますので、下記のQRコードからご利用ください。





カイくんときょうちゃんの 「お邪魔します!!」

「 来日教誨師 ハビエル・ガラルダ神父を訪ねて」



カ イ：神父様はおいくつですか？

神 父：私は1931年スペインのマドリッド生まれの92歳です。

きょう：どうして日本に来たのですか？

神 父：スペインの神学校を卒業するとき、どこで活動しようかと悩んでいると、日本のアルペ神父様から日本は神父が足りないの、日本に来て欲しいと依頼を受けました。考えてみると、私の両親は、新婚旅行で日本を訪れていましたから、小さい時から日本の話を聞いていました。

また、日本にキリスト教を伝えたのはフランシスコ・ザビエル神父ですが、彼はスペインのハビエル出身で私の名前と同じです。なにか日本とは縁があると感じ、1958年に日本にやって来ました。それからずっと日本で生活しています。

きょう：神父様は1966年上智大学の講師から始まり、現在は名誉教授であり、お忙しいかと思いますが、どうして教誨師になられたのですか？

神 父：1994年63歳の時に府中刑務所の教誨師になりました。聖イグナチオ教会のエルナンデス師が先に教誨師になっていて、お手伝いで通っていましたので、教誨師についてはある程度理解していました。

また、兄はスペインで刑務所からの出所者の支援活動をしていました。そのような関係で教誨師を引き受けました。現在は東京拘置所の教誨師も兼任しています。

カ イ：教誨師としては、どのような活動をされていますか。

神 父：府中刑務所には、個人教誨と集合教誨で月2回、東京拘置所には個人教誨で月1回訪問しています。

府中では、皆さん希望を持って元気に頑張っていますから、友達に会いに行くつもりで通っています。

彼らの多くは、自分自身のこと・家族のこと・将来のことと悩んでいるので、私は「泣かないで、忍耐強く、希望を持って生活すること。」出所後のことを考えて「施設内の作業や職業訓練を受け、技能を身につけて将来の仕事につなげること。」また、自由時間ではなんでもいいので「勉強すること。」を勧めて「規律正しく生きること」を身につけてほしい。」と願っています。そして「有意義に刑務所生活を送る

こと。」がなによりも大切です。

きょう：約30年外国人受刑者の皆さんの個人教誨をしています、昔と今ではなにか変化はありますか。

神 父：職員に対する不満が少なくなりました。

人数の多いスペイン語系外国人受刑者の国籍が変化しました。食事については、時がたつと皆さん慣れるようですし、施設側も外国人食の充実を図ってしてくれました。外国語書籍も充実しているので、満足しているようです。

昔も今も、皆さんは「孤独がつらい」「不安だ」「家族と電話で話したい」「規則は厳しいが大丈夫」と言います。

また、犯罪に走った理由は、昔も今も「貧しかったこと。」「家族と繋がっていなかったこと。」「女・酒・金・車が欲しかったこと。」です。

きょう：話は変わりますが、日本の家庭に必要なもの、足りないものはなんですか？

神 父：日本の家庭の中までは知りませんが、

- 1 一緒に祈ること。無理矢理でも一緒に祈る。家族みんなで祈ること。
- 2 子どもたちとミサに行くこと。
- 3 イエスは主なる友だち。ペトリのようにイエスに対して尊敬に満ちた友情を育てるのが大事。イエス・キリストとマリアと友だちになること。キリストのようにキリストと共に生きること。
- 4 子供が一時的に離れることがあっても、いつか戻れるように信じて、それを教えること。
- 5 人を大切にすること。貧しい人に親がなにかをしていれば、それをはっきり覚えている。子供は親がした行いを覚えている。親の見本を実行してみせること。立派なことを言って実行しないのではなく、立派な行いをすること。
- 6 困っている人たちの所に行って経験させるのがよいこと。
- 7 片方の親がカトリックに理解がない場合でも、カトリックに対して軽蔑ではなく尊敬をみせること。
- 8 愛を信じること。

きょう：先生と話しているとなにか温かい気持ちになりました。

きょう・カイ：本日はありがとうございました。